

輪島塗ボールペン

ペン先で世界の未来描く 伊勢志摩サミットで採用 セキセイ

毎日新聞 2016年6月6日 大阪夕刊



輪島塗仕様のボールペンを手にする西川雅夫・セキセイ会長＝大阪市北区で、平川義之撮影

アルバムなどの文房具を手掛けるセキセイ（大阪市）が限定販売する輪島塗のボールペンが、5月26～27日に三重県志摩市で開かれた主要7カ国（G7）首脳会議（伊勢志摩サミット）で、7首脳がメモするための筆記用具に採用された。

ペンは26日の会議で実際に使われ、その後7首脳に贈られた。中秋の名月を見つめるウサギが表現され、月は日の丸のようにも見える。ペンをデザインした西川雅夫会長（67）は「伝統技術の輪島塗が世界に羽ばたくきっかけになれば」と喜ぶ。

西川会長が石川県を旅した際、輪島塗を使った万年筆やペンがないことに気付いて企画した。ペン軸をカエデの木にし、漆を7～8回重ね塗りした後、彫って金箔（きんぱく）を置く沈金を施す。製造に2カ月かかる5万円（税別）の本格派ペンで、5年前から受注を受けて生産・販売している。

月夜を見つめながら跳びはねるウサギの絵柄で、ウサギの耳を胴体より大きくするなど、世界に通じるデザイン。月は太陽のようにも見え、「昼でも夜でも常に人々の声に耳を傾け、未来に飛躍するきっかけを模索してほしい」との願いを込めた。

西川会長は「社会から求められる高付加価値商品を生み出すという、もの作りの今後の道を示せば」と話す。問い合わせは同社（電話06・6621・2331）。【宇都宮裕一】